

# エナメル上皮腫の患者を見守りながら 外来看護を考える

歯科口腔外科 発表者 日比野 和子

## I はじめに

4月より歯科口腔外科勤務となり、口腔内という限ぎられた部分での疾患を見守る中で長期に渡る通院加療が必要で再発がまれないエナメル上皮腫という2名の患者に出合いどの様な看護を必要とし、どの様な援助ができるだろうかと、疾患を見守り、それを学びながら外来看護とはどのようなものであるべきか6ヶ月間の勤務の中で経験し、考えてきた事を発表したいと思います。

## II エナメル上皮とは

歯源性上皮性腫瘍で実質が歯胚上皮に類似し、しばしば大小の嚢胞を形成するのを特徴とす。

好発年齢 20~30歳代の者に認められる。性差は著しくない。

好発部位 下顎骨（臼歯部とくに智歯部が全体の約3/4を占める。）腫瘍の増大と共に顎骨や頬部口腔内への膨隆を示し、ときには皮質骨の一部が吸収消失することもある。

X線 一般に境界明瞭な単胞性又は多胞性の透過像を示し、埋伏歯を伴うこともまれではない。

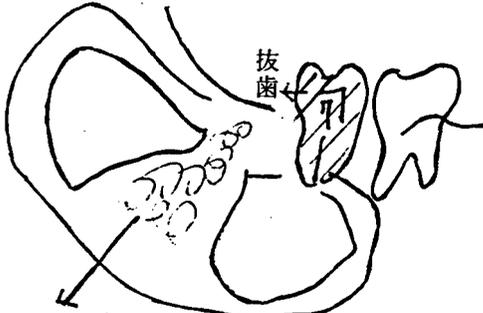
腫瘍の発育 一般に膨張性で緩慢であるが骨髓腔内に侵入、増殖する傾向がある。（これは摘出後の再発がまれないことと関係がある）

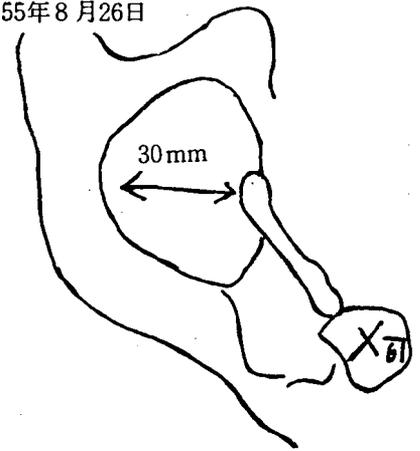
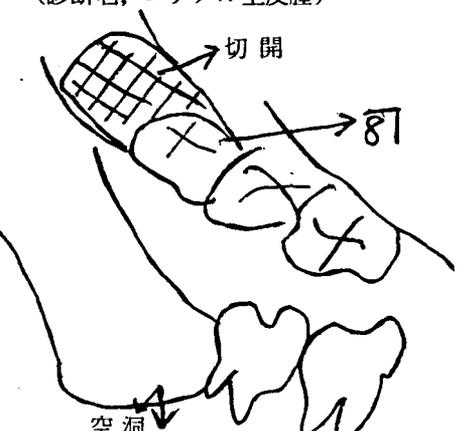
症状 初期は自覚症状なし、腫瘍が鶏卵大くらいに増大してくると、患部の膨隆や歯の動揺をきたして気づくもので羊皮紙音波動を認めるようになる。

分類 嚢胞型エナメル上皮腫・充実型エナメル上皮腫

治療 腫瘍摘出術（嚢胞エナメル上皮腫では開窓療法により腫瘍の縮少を計ってから後のことである。）あるいは腫瘍を含めた顎骨切除を行う。

## III 症例紹介 経過

	氏名他	主 訴	今までの経過	当 科 経 過
症 例 1	氏名 KM 年齢 36歳 職業 病院 事務 初診日 S54年12月20日 発生部位大きさ 右下顎角へ6cm 付近まで骨体 下縁に骨膨隆 あり	下口唇のしびれ	S54年11月20日頃より右下口唇のしびれを自覚、オトガイから右下顎骨体部へひろがる。 8) 抜歯を2ヶ月前に行い経過良好であった。 2週間後歯肉に腫張を発見する。疼痛なく、しびれ感あり。	S55年1月16日開窓プローベ（診断名、エナメル上皮腫） S55年2月14日瘻孔拡大プローベ（診断名、下顎骨エナメル上皮腫） S55年5月13日 7) 抜歯、開窓 

				<p>55年 8月26日</p>  <p>30mm</p> <p>*全期間中1週～2週に1度の洗浄ガーゼ交換に通う</p> <p>S 50年 9月30日</p>
<p>症 例 2</p>	<p>氏名 Y S 年齢 32歳 職業 病院事務 初診日 S55年2月15日 発生部位大きさ 右下顎角部</p>	<p>右下顎部の異和感と出血</p>	<p>約1ヶ月前右下顎リンパ節の腫張と疼痛に気づき4.5日たってから疼痛、出血排膿が生じ2月15日某院受診、2月15日当科紹介となる</p>	<p>S 55年 2月19日腫瘍開窓術プローベ (診断名, エナメル上皮腫)</p>  <p>切開</p> <p>81</p> <p>空洞</p> <p>S 55年 6月16日 81 抜歯開窓プローベ (診断名, エナメル上皮腫)</p>  <p>81 抜歯</p> <p>腫瘍空洞に肉芽の増生が見られる</p> <p>S 55年 9月 8日開窓</p> <p>*全期間中10日～14日毎にガーゼ交換洗浄に通う</p> <p>S 55年 9月30日</p>

#### IV 看護の実際

##### A) 看護上の問題点

- 1) 疾病の経過が1年2年という長期に渡るためどのような看護上の援助が必要であるか解らないまま、処置介助だけに終わってしまう。
- 2) 時間的に余裕がないため指導がむづかしい。診療のピーク時間帯には処置だけで終わってしまうことがある。当科は予約制であるが、それでも患者に時間を待たせることがある。3人の衛生士と2人の看護婦で一応の業務分担がなされているが時間帯によっては看護婦が患者に関われないことがある。
- 3) 外来には看護記録がない

##### B) 看護の実際

###### 問題点1) に対して

指導目標としてa) 口腔衛生 b) 栄養 c) 精神的不安の除去の三つをあげできるだけ機会をとらえ説明につとめた。

###### a) 口腔衛生についての説明

口腔内を清潔にしておくことは健康である人にとっても当然守らねばならないことであるが、口腔内に疾病や創のある場合は特に強く要求される。3・3・3式いわゆる1日3回毎食後3分以内と就寝前に3分間の歯磨きと創付近は歯ブラシによる刺激や創を傷つける危険があるためさけ含嗽を十分するよう心がける。なお食後といわず口腔内に不快感を覚えた時、食物を摂取した時は必ず含嗽だけはすること、なお歯磨剤は創を刺激することがあるのでさけた方がよい。又舌による摩擦、指による創の刺激もさける。

(うがいのやり方) 口腔内に水(含嗽剤)と空気を7~8分目入れて乱暴にブクブクさせる。洗口液を口に含んで頭を前下方に傾け、頬および口唇を強く動かして歯間部の食物残渣などを洗流するように10秒位洗口液を口の中で激しくブクブクさせた後吐きだす。この操作を2.3回くりかえす。ブラッシングは丁寧にうがいは乱暴にという言葉をつねに頭において行うこと。

###### b) 栄養について

開口制限はないので普通の食事摂取が可能である。口腔内のテラマイガーゼ挿入という異和感味覚の面でも不快感があるでしょうが、栄養価の高い消化のよいものを取り、体力の保持増進につとめるよう話す。又創の刺激をさけるため、熱いもの、冷たすぎるものからいものなど刺激物はさけるよう話す。

###### c) 精神不安の除去について

KM氏、特に訴えの少ない人である。長期に渡るものということは初診時開窓時に医師より話されているためか、不安、あせり、治療に対する懸念を訴えることは全くなかった。口腔内のテラマイ軟膏ガーゼが常に挿入されている異和感、不快感にも慣らされてしまって、食事でも普通にとれ疼痛もなく、しびれ感もない。処置時における態度も歯科処置恐怖症的な所は見うけられなく、いつも毅然として礼儀正しかった。この様な患者の態度は我々にいいかげんな看護態度をさせないものを持っていたし、精神的援助の必要性を与えていなかった様に思われる。

YS氏、神経質でいつも治るだろうかという不安を持って通院している。ガーゼ交換時の出血や開窓術時の疼痛に対して麻酔に対して、創の大きさその後の経過など不安と恐怖を訴えたが、手術の必要性を医師から十分に説明を受け、看護者である私達も心配のないことを説明した。又通院時には励ましの言葉をかける様心がけた。

###### 問題点2) に対して

2人とも予約時間は守っていた。二人の診療のユニットでの処置介助はスタッフに協力してもらい看護婦がつく様につとめ、処置介助前後に話しかけの時間を持つ様にし、診療後は事務的処理が早く出来る様にした。又診療前に待ち時間がある場合は待合室で話しかける様つとめる。

問題点3) に対して

病室においては看護記録があるが、外来では外来カルテが患者をしる唯一のものである。その外来カルテは医師が疾病の状態、処置、内服薬、検査データなどを書き入れるだけで、看護者に必要な処置の水準や患者の精神状態などは記入されていない。短期間の患者や疾病によっては特に必要のない場合もあるが、長期に渡る患者、又フォローアップの必要な患者における看護上の記録がこの研究のまとめにおいて必要になってきた。今後の課題にしていきたい。

## V 評価および考察

KM氏におけるエナメル上皮腫の状態は5月13日開窓術時から不変状態である。9月に入って医師から腫瘍を含めた顎骨切除を行った方がというコメントがもらされたが、患者にそれを進めている状態ではない。又YS氏においても創内の肉芽の増殖における開窓術はしたものの腫瘍の増大もなく不変である。2人とも口腔衛生に対してはかなり注意をはらいいつも外来診療時における口腔内はきれいであった。栄養にも普通食がとれるということもあり、体重減少はみられなかった。外来看護の特徴として、入院患者の場合は全生活が病棟にあり、24時間をとおして看護婦はあらゆる方向から援助をするが外来患者の場合は家庭、寮や下宿先など、各々の居住するところがあり、通学通勤あるいは家庭生活と並行して通院している。したがって外来の看護は短い接触時間のなかから、その患者に必要な援助は何であるかを洞察しなければならない。又外来患者の場合は日常生活援助、つまり指導をとおして治療方針や療養方法を守らせねばならない。患者は直接的には医師や看護婦の目から離れたところで内服や生活の程度などすべて自分で管理しなければならない。したがって病院における看護のはたらきかけばかりでなく、その患者を通じて、社会に直結した看護の機能が発揮される様現状を見つめ、具体的に研究し看護を高めていきたいと思います。

## VI おわりに

今後どの様な経過をたどるか分からない2人の患者を見守りながら、患者の心理、生活指導など具体的な問題を通して外来看護を考えてゆきたいと思います。

### 〔参考文献〕

- 1) 川島みどり・藤田五郎編集 外来看護 医学書院
- 2) 鈴木 貢・小谷 朗共編 口腔外科 日本医事新報社
- 3) 上野 正 看護学全書歯科看護学 メジカルフレンド社
- 4) 小野 巖 他 歯ブラシの使い方指導の手びき 医歯薬出版株式会社
- 5) 看護技術 72. 7月号 メジカルフレンド社